

様式11 指定管理者制度活用事業 評価シート

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	生田緑地、川崎市岡本太郎美術館、川崎市立日本民家園、川崎市青少年科学館	評価対象年度	令和6年度（令和6年4月～7年3月）
事業者名	・事業者名 生田緑地共同事業体 ・代表者名 株式会社日比谷花壇 代表取締役社長 宮島 浩彰 ・住所 東京都千代田区内幸町1丁目1番1号	評価者	建設緑政局緑政部生田緑地整備事務所長 市民文化局市民文化振興室岡本太郎美術館副館長 教育委員会日本民家園長 教育委員会青少年科学館長
指定期間	令和5年4月1日～令和10年3月31日	所管課	建設緑政局緑政部生田緑地整備事務所 市民文化局市民文化振興室岡本太郎美術館 教育委員会日本民家園 教育委員会青少年科学館

2. 事業実績

利用実績	【生田緑地】利用者数：790,541人、駐車場利用台数：90,837台（内訳：東口駐車場：63,669台、西口駐車場：26,764台、生田臨時バス駐車場：404台）、東ロビジターセンター利用者数：225,610人、西ロサテライト利用者数：14,722人 【岡本太郎美術館】利用者数：94,594人 【日本民家園】利用者数：116,258人 【青少年科学館】利用者数：245,195人					
収支実績	＜収 入＞指定管理料：489,000千円、利用料金収入（駐車場）：53,472千円、 					

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点	
利用者満足度	利用者満足度	利用者満足度調査を適切に実施しているか	8	4	6.4	
		利用者満足度は向上しているか				
		調査結果の分析を行い、満足度向上のための具体的な取組に反映しているか				
	事業成果	事業実施による成果の測定が適切に行われているか	6	3	3.6	
		当初の事業目的を達成することができたか				
	協働の取組	生田緑地マネジメント会議の事務局として適切な運営を行っているか	8	4	6.4	
		市民との協働により適切な維持管理及び自然環境の保全を図っているか				
		新たな担い手の発掘に向けた取組を実施しているか				
	魅力の向上	伝統工芸館について、生田緑地の活性化につなげる活用ができたか	8	4	6.4	
		施設間の連携・多様な主体との連携により生田緑地全体の魅力の向上が図られているか				
		生田緑地全体広報が戦略的に展開され、魅力発信できているか				
	(評価の理由) 【利用者満足度】 ●利用者満足度を把握するため、常設アンケート調査を適切に実施した。アンケート調査の利用者満足度では、令和6年度は約68%の利用者から「とても満足した」、約27%の利用者から「満足した」との評価を得ており、合わせて約95%の利用者から「満足した」以上の評価を得て、引き続き高い評価となった。(参考：令和3年度約97%、4年度約95%、5年度97%) 【事業成果】 ●月次及び四半期毎のセルフモニタリングを実施するとともに、苦情・要望について情報共有し、必要な改善や対策を行いながら利用者満足度の向上に努めた。事業計画にて設定した「自然環境の有する機能の最大限の発揮」「施設の特性を理解した適切な管理運営」「緑化フェア及び市制100周年の成功に向けた取組」「利用者の少ないエリアの活性化」「生田緑地のポテンシャルを分かち合い、尊重を軸とした協働」「チームワークによる広報展開」等について、計画通り達成したと認められる。 ・緑地及び各施設の来園（館）者数については、岡本太郎美術館は目標比約114%、民家園では目標比約113.2%となるなど、ほぼ目標を達成した。 ・市制100周年かつ岡本太郎美術館開館25周年という節目の年となり、「全国都市緑化かわさきフェア」をはじめ多くの記念事業が生田緑地で展開されたが、市と密に連携・協力しながら、これまで培ってきた運営や維持管理のノウハウを最大限発揮し、適切かつ柔軟な管理運営を行うとともに、生田緑地の多彩な魅力を全国に発信した。 ・地域の店舗の販売機会の創出を目的とした「食の祭典in生田緑地」の実行委員として、企画・準備から会場設営等に携わり、2日間で約2万人が来園し、生田緑地を拠点にした地域活性化に貢献した。また、マルシェについても、回数を増やし、地元飲食店の出展機会を拡充するなど、地域の活性化を図った。 ・西口広場での「TAROマルシェ」や枳形山展望台での薪能の開催など、利用者の少ないエリアの活性化に向けた取組を強化した。 ・情報発信については、市の観光施策担当部署や観光協会と連携しPR強化に努めるとともに、国内外に向けた発信強化を図った。 ・対象をこれまでの「種」のみではなく「エリア」も追加で設定して生物調査を実施し、結果、絶滅危惧種や準絶滅危惧種を確認するなど、緑地内の自然保全の取組を進めた。 ・HPやSNSといった既存の媒体や掲示スペースのみならず、食べログのパナーや近隣商業施設等、新たな広報媒体や広報場所の模索や検討を行い、実施後の効果等を3館等で共有しながら、生田緑地全体の魅力発信を行った。					
	【協働の取組】 ●生田緑地マネジメント会議及び自然環境保全管理会議の事務局として適切な運営を行ったほか、「緑化フェアプロジェクト」「生田緑地ビジョンプロジェクト」「生田緑地東地区を考えるプロジェクト」などのプロジェクト会議の運営を行い、プロジェクトで話し合った企画がフェア春開催のイベント等につながった。また、新たなミュージアムの考え方の提言書のとりまとめにつながるなど、市の施策推進に大きな役割を担った。 ●かわさき自然調査団との連携では、緑地内の各所にロープ柵を設置し、管理側による草刈防止のための視認性を高めた他、アケボノソウの盗掘防止を併記した看板を設置した。また飛森谷戸の自然を守る会と連携した、ホテル観賞マナーに関する看板設置や、横浜保護観察所との連携による侵略的外来種ミドリハカタカラクサの除去等を行った。 ●飛森谷戸の自然を守る会との協働により、向丘小学校3年生の総合学習の一環として、出張ガイダンスや初山地区での里山保全活動を行い、生田緑地の将来を見据え、子ども達が自然に親しみやすく理解が深まるようなプログラムを考えるなど、地域の世代間交流促進の取組を行った。 ●団体に属さず気軽に参加できる「ゆるボラ」の取組として、初の企業団体（明治安田生命）を受入れ、雑木林を育てる会のメンバーも参加しながら、ナラ枯れ後のコナラ林再生活動（下草刈り）を行うなど、ボランティア活動の新たな担い手づくりに向けた取組を進めた。					

【魅力の向上】

- 伝統工芸館内での藍染のワークショップやミニ展示、中央広場での藍染体験やワークショップの実施、藍を基調とした民家園webサイト内の特設ページの運用、新商品の開発や通販事業への積極的な参加など、多くの人に藍染の美しさ・すばらしさを発信することを通して、民家園のみならず生田緑地の魅力の向上に寄与した。
- 生田緑地とその周辺の回遊性向上を目的に、緑地にある美術館、民家園、科学館、藤子・F・不二雄ミュージアムの4館と登戸行政サービスコーナーを巡るスタンプラリーを開催し、昨年度を上回る約13,592人が参加した。
- 「ココロとカラダ、動かそう」をテーマに、例年に増して「生田緑地オリジナル」と「地元発」を意識したスプリングフェスタを全国都市緑化フェアと同時開催。生田緑地の竹を使ったアーチや藍染、草木染等の装飾や展示とともに、多摩区に拠点を置くプロレス団体の試合やボクシングのスパarring、「いくたりよくちヒーロー」の音楽ステージなどを行い、9,373人もの方に来場いただくなど、好評を博した。
- 美術館の取組として、指定管理者の特性を活かしたフラワーレッスン等により、美術鑑賞にもう1つの楽しみを提供した他、展覧会の特性に応じた効果的な広報展開を行い、当初見込より前倒しでの来館者200万人達成に貢献した。
- 民家園の取組として、古民家とモミジのライトアップや「炉端の会」による囲炉裏での火焚きにあわせ、日本酒の試飲と日本酒文化の講義の他、日本酒の販売を行い、「学び」と「愉しみ」の両面から日本酒に触れる「日本酒講座」を開催した他、古民家においてヨガやピラティスなどを実施し好評を博した。
- 科学館の取組として、新たに周辺の金融機関やショッピングモール等でもポスター掲示を行うなど、広報先の拡充を図ったほか、生花を中心とした新規顧客イベントの開催や、プラネタリウム投影観覧後も施設内で楽しんでもらえるよう、ワークショップの時間を見直すなど、利用者の視点にたち既存の取組の強化を図った。
- HPやSNSにおいて、全国都市緑化フェアをはじめ緑地及び各館のイベントや展示、四季の見どころの発信に加え、緑地内での日々の小さな気づきや発見をこまめに投稿した他、生田緑地公式のHPでは最初の1ページしか閲覧しなかった直帰率が30%台、生田緑地公式のXではフォロワー数が7,000人を突破するなど、緑地の魅力を幅広い層に情報発信できるよう工夫しながら投稿を行った。

収
支
計
画
・
実
績

効率的・効果的な支出	計画に基づく適正な支出が行われているか	6	3	3.6
	支出に見合う効果は得られているか			
	効率的な執行等、経費削減の具体的な取組は為されたか			
収入の確保	計画通りの収入が得られているか	6	4	4.8
	収入増加のための具体的な取組が為されているか			
適切な金銭管理・会計手続	入館・入園料収入や釣銭等について適切に管理を行っているか	4	3	2.4
	事業収支に関して適正な会計処理が為されているか			
(評価の理由) 【効率的・効果的な支出】 ●電気料金の高騰に伴い、結果として光熱水費が大幅に増加したものの、必要最低限以外の空調機の停止や照明の間引き、不要箇所の消灯、ピークコントロール見直しによる単価上昇抑制と便座温度など小まめな温度管理を行うなど、最大需要電力を抑える工夫を重ね、その結果を毎月各施設責任者が集う全体会議で報告し、節電に関する意識向上を徹底しながら、コスト削減に努めた。 ●消耗品について、購入先の比較や横断的管理運営を生かした一括購入によりコスト削減を図った。 ●コスト意識を徹底し、自主事業イベントにおけるポスターデザインや会場装飾の内製化、民家園における常駐技術員による修繕作業の実施など、可能な限り外注と直営で実施した場合のコスト比較を行うなど、コスト削減を図った。 【収入の確保】 ●自主事業では、利益率の高い森のマルシェを月2回から4回に回数を増やした他、全国都市緑化かわさきフェアに伴う新規来園者の増加を見込み、新たに「生田緑地のお土産品」として、ポストカードや一輪挿しのセット販売、オリジナルリース、オリジナルタオル、市制100周年を記念したばらサイダーの販売にも注力しながら、収入の確保につなげた。また、民家園では、「民家園だからこそ買える商品」をテーマに、ショップ改革に取り組み、海外からの来園者の増加も見込んで、「藍染め」の認知拡大をはかりながら、新たな収入源の確保に努めた。 【適切な金銭管理・会計手続】 ●納品書・請求書等の伝票管理を適切に行っており、報告書には支出費目ごとの内訳や月別・施設別の事業収支が添付されている。また、各館の観覧料を溜め置きしないよう入金ルールを徹底した上、大型連休の際は本社入金担当と連携し遅延のないよう実施したり、入金機の使用の際には個人コードでログインするセキュリティを強化するなど、適正な管理を行った。				

サービス向上及び業務改善

適切なサービスの提供	提供すべきサービスが仕様書や実施計画等に基づいて適切に提供されたか	6	4	4.8
	サービスの利用促進への具体的な取組が為されているか			
	利用者への情報提供を適時かつ十分に行っているか			
業務改善によるサービス向上	実施計画と実際のサービス提供に「ずれ」が生じている場合、原因究明に必要な取組が為されているか	6	4	4.8
	業務改善が必要な場合に、現状分析、課題把握、改善策の検討と実施が行われているか			
	業務改善の取組によって具体的な効果があらわれたか			
利用者の意見・要望への対応	利用者ニーズの把握に努め、それを事業や管理に反映させる取組が為されているか	6	4	4.8
	意見・要望の収集方法は適切だったか（十分な意見・要望を集めることができたか）			
	利用者からの苦情や意見に対して、迅速かつ適切に対応しているか			
（評価の理由） 【適切なサービスの提供】 ●HPやSNS、広報誌等様々な媒体を活用し、各種イベントや植物の見頃、園内の一部通行止め等の情報や全国都市緑化フェアの開催状況など、幅広い年齢層に適時かつ十分な情報提供を行った。 ●エリアの利用活性化に向け、西口広場でのTAROマルシェ、枳形山展望台での薪能や音楽イベントを実施した他、プロカメラマンによる生田緑地写真館を実施し、生田緑地の資源の有効活用や賑わいの創出の面から活用につなげ、利用者から好評を博した。 ●民家園通り商店会夏祭りへのワークショップ及びグッズ販売等の出展、向ヶ丘遊園駅南口花壇における地元商店会や町会との花植活動への参加、生田出張所新広場オープニングイベントでの薪割り体験の開催、「ミューザ川崎出張藍染め体験WS」の実施、向丘小学校出張ガイダンス、向ヶ丘遊園駅GINZA FORESTでの「みんなで生田緑地ビジョンマップを作ろう！」への参加、JR登戸駅前スペースでの多摩区内の緑関連施設（緑化センターなど）と連携したWSの開催等、生田緑地の外での活動を積極的に行った。 ●美術館の券売機について、間違えるポイントを洗い出すなど徹底した検証を行った上で、画面遷移やボタン設定を改良することで、サービス向上を図るとともに、スタッフの業務効率の上昇（手間の減少）にも寄与した。 【業務改善によるサービス向上】 ●実施計画どおりにサービスを提供できなかった場合は、毎月・4半期ごとのモニタリングで確認したうえで、その原因を追求し、次回以降はその改善点を踏まえて実施するよう努めた。 ●全国都市緑化かわさきフェアの開催に向けて、来園者の増加も見込まれることから、スタッフの接遇を今一度見直し、春と秋に接客接遇研修を行った。 ●これまで禁止としていた中央広場でのポップアップテントの使用について実証実験を行うなど、来園者がより快適に過ごせる環境の提供に向けた新たな可能性の検討を進めた。 ●令和6年6月に発生した公式Xの誤配信については、令和5年度からSNS発信に係る管理・監督体制が確立されておらず、不適切な運用が行われていた点について、令和5年度の評価に反映されたことを踏まえ、コンプライアンスに係るマニュアルや運用方法を再検証の上、見直し、スタッフへの研修や定例的なミーティングでの注意喚起を行うなど、再発防止に取り組み改善を図った。 【利用者の意見・要望への対応】 ●近隣住民からの草刈り・剪定等の要望や利用者からの苦情や要望に対して、迅速かつ適切に対応するとともに、状況に応じて速やかに市へ報告がなされた。毎月実施するセルフモニタリング等において苦情等の対応記録を市へ適切に報告した。 ●順次実施しているナラ枯れによる倒木の危険がある区域の通行止めについて、来園者に分かりやすいよう掲示物の説明方法を工夫するなど、利用者から意見がある度、改善を行った。また、ナラ枯れによる通行止めやタバコなどの利用ルールなどを適切な場所に掲示し、分かりやすい案内を行った。 ●近隣住民から寄せられた要望についてはデータ化を行い、草刈りや植栽管理などの要望が入る前に対応や予定を組んで作業が実施できるよう、毎年の案件は事前に対応を行い、近隣住民との信頼関係の構築を図った。				

適正な人員配置	必要な人員（人数・有資格者等）が必要な場所に適切に配置されているか	4	4	3. 2
連絡・連携体制	定期または随時の会議等によって所管課との連絡・連携が十分に図られているか			
再委託管理	再委託先との連携調整が適宜・適切に行われ、業務の履行についても適切な監視・確認が為されているか			
担当者のスキルアップ	業務知識や安全管理、法令遵守に関する研修が定期的に行われ、スタッフのスキルとして浸透しているか	2	3	1. 2
安全・安心への取組	事件・事故、犯罪、災害から利用者を守ることができる適切な安全管理体制となっているか（人員配置、マニュアル、訓練等）	4	3	2. 4
	緊急時に警察や消防など関係機関と速やかに連携が図れるよう、連絡体制を構築し、定期的に情報交換等を行っているか			
コンプライアンス	個人情報保護、その他の法令遵守のルール（規則・マニュアル等）と管理・監督体制が整備され、適切な運用が為されているか	2	3	1. 2
職員の労働条件・労働環境	スタッフが業務を適正に実施するための、適切な労働条件や労働環境が整備されているか	2	3	1. 2
環境負荷の軽減	環境に配慮した調達や業務実施が行われているか			
市内中小企業の活用	業務の一部委託において市内中小企業者を再委託者として選定しているか	2	3	1. 2
障害者雇用	積極的な障害者雇用が行われているか			
（評価の理由） 【適正な人員配置】 ●民家園において事務室スタッフの不足が一時的に生じたものの、有資格者等必要な人員を適切に配置するとともに、普段から各施設の担当者等が研修や情報共有を通じて他施設の業務も理解し、構成企業本部の応援体制も構築することにより、休館（園）日を設けず連日開館（園）していた全国都市緑化フェア開催期間中や急なスタッフの欠員に際し、人員を融通し、運営に支障を来すことがなかった。 【連絡・連携体制】 ●各館の業務責任者や施設長等が参加する全体会議を定期的に開催し、情報共有の円滑化に努めた。また、各館の担当者等が参加する工程会議では、工事・展示関係による車両の進入情報や危険箇所の情報、委託警備会社からの巡回警備の際に気づいた課題等を共有し管理運営を行った。 ●生田緑地整備事務所の市職員を含めた連絡体制を確立し、迷子やけが等の緊急時における各館への迅速な情報共有及び市への報告を速やかに行った。 ●全国都市緑化フェア開催期間中においては、運営サイドと緊密に連携をとりながら、緑化フェアのオペレーションを熟知の上、連絡体制を確立し、無線機やメッセージアプリを活用しながら、車両の通行や園内ルール、迷子やけが等に適切に対応するなど、緑化フェアの円滑な運営に寄与した。 【再委託管理】 ●毎月実施している所管課モニタリングにおいて日報や作業写真等の提出を受けており、適切に管理していることが確認できる。また、委託先の責任者がJV会議や全体会議に出席し、情報共有を図った。 【担当者のスキルアップ】 ●各施設のスタッフが集まる研修の開催により各施設の課題の共有、活性化に向けたアイデアを話し合い、本部とも共有することにより、各施設の運営に生かした。 ●館内アナウンスを正確に伝えることで、サービス向上のみならず災害時の正確な情報の伝達につながることから、スキルの高いスタッフが講師となりアナウンス研修を行った。 【安全・安心への取組】 ●管理用カメラの設置台数を増やし、モニターにて随時確認し、有事の際に情報収集ができるようにした。 ●震度4以上の地震、大型台風・ゲリラ豪雨、降雪の際には、迅速にパトロールを行い、危険箇所を把握し、通行止めの措置等を適切に実施した。また、区役所とも密に情報共有を図りながら、迅速な避難所開設作業を行った。 ●枯れ枝は落枝等の危険があることから、特に強風時等は巡回を強化し、利用者の安全確保に努めた。さらに、園路沿い等、来園者に危険が及ぶ可能性がある被害木について、伐採を行った。 ●多発する各地の大地震に伴う被害等を踏まえ、現行の「危機管理マニュアル」の見直しを行った。 ●多摩警察署や多摩消防署と定期的な情報交換により連携を深め、中央広場等におけるアクティブ交番の導入や心肺蘇生講習会を実施するなど、危機管理体制強化を図った。 ●災害時等の緊急時のライフラインとして、引き続き緑地内の全自販機を災害対応型（災害ベンダー）とし、使用マニュアルについて最新のものを用意できるよう、ベンダーと連携を図った。 【コンプライアンス】 ●リスクマネジメント（Pマーク・ハラスメント防止）に関して各施設でテキストを活用するとともに確認テストを実施し、スタッフのコンプライアンスに関する理解を深めるなど適切な運用に努めた。 ●令和6年6月に発生した公式Xの誤配信については、令和5年度からSNS発信に係る管理・監督体制が確立されておらず、不適切な運用が行われていた点について、令和5年度の評価に反映されたことを踏まえ、コンプライアンスに係るマニュアルや運用方法を再検証の上、見直し、スタッフへの研修や定例的なミーティングでの注意喚起を行うなど、再発防止に取り組み改善を図った。また、構成企業本部とも連携し、各施設において点検シートを活用したセルフチェックを実施しながら、公式X含めたSNS発信について、スプレッドシートを活用し、複数の職員による投稿内容のチェックが実施されるなど、誤配信の再発防止に取り組むとともに、メール送信を含めた個人情報の管理について、業務チェック体制や連絡方法（メール時の1対1でのやり取り）を見直すなど、運用体制の改善を図った。 【職員の労働条件・労働環境】 ●植栽等の維持管理を担当する作業員を対象とした月1回の災害防止協議会の実施及び日常のこまめな体調管理の声掛け等により、前年度に引き続き無事故無災害となった。 【環境負荷の軽減】 ●民家園における囲炉裏の火焚きで出た灰を使った藍液の作成、清掃時のアルカリ性除菌剤や緑地内トイレにおける廃材による竹パウダーの活用、殺虫剤などの使用控え等を行った。 ●不要となった蛍光灯類の他館への融通や空調機器の切り忘れの確認、照明の間引きや不要箇所の消灯を徹底した。 ●「お月見フェスタ」において、オリジナルの「トートバック」等を販売し、レジ袋を持たずに買い物できるよう配慮した。 ●軽微な木道補修等においては、剪定作業時に発生した材等を活用した。 【市内中小企業の活用】 ●「森のマルシェ」等において、近隣の店舗を中心に出店してもらった他、清掃や植栽管理、警備業務等において、市内事業者を活用することにより、市内の経済の活性化を図るとともに、生田緑地に対するノウハウを最大限活用し、安全・安心な管理運営を行った。 【障害者雇用】 ●民家園において、支障木の伐採や除草作業、竹垣の整備等の従事する職員の雇用を行った。				

適正な業務実施	施設・設備・備品の保守管理	安全な利用に支障をきたすことのないよう、施設・設備・備品の保守点検や整備、整頓等を適切に実施しているか、また利用者が使用する消耗品等の補充が適切に行われているか	8	3	4.8
	管理記録の整備・保管	業務日誌・点検記録・修繕履歴等が適切に整備・保管されているか。			
	外構・植栽管理（建物）	各施設の外構の植栽を適切に管理（草刈、剪定、害虫駆除等）しているか			
	清掃業務	施設内及び外構の清掃が適切に行われ、清潔な美観と快適に利用できる環境を維持しているか	4	3	2.4
		各施設の特性に合わせた清掃が行われているか			
	警備業務	施設内及び敷地内の警備が適切に行われ、事件・事故・犯罪等の未然防止に役立っているか	4	3	2.4
		各施設の展示監視が適切に行われているか			
	樹木等管理	市及び委員会と協力し、緑地及び民家園における植栽・植生管理が適切に行われているか、また日本民家園における支障樹木管理が適切に行われているか	4	4	3.2
		市民活動団体と合意形成を図りながら樹木管理を行っているか			
	（評価の理由） 【施設・設備・備品の保守管理】 ●年間業務計画に基づきそれぞれの施設の特性に合わせた適正な業務の遂行に努めており、業務日報等で適切に管理している。また、日常、定期点検を通じて設備不具合及びその兆候を発見した場合は、常駐技術員が対応・処置及び、状況により協力業者へ対応依頼を行った。さらに、各施設で設備・備品の管理簿を作成し、適切な管理、整頓を行うとともに、備品台帳の更新や消耗品等の補充を適時かつ十分に行った。 【管理記録の整備・保管】 ●毎日の施設巡回により、設備や備品の不具合の早期発見と事故の未然防止に努めるとともに、管理記録を毎日の業務日誌に記録している。 【外構・植栽管理（建物）】 ●施設ごとの植栽管理方針に基づき、適切に草刈、剪定等を行い、利用者が快適に楽しめる空間を提供した。 ●新たな植栽が難しい生田緑地内において、企業の装飾技術を生かし、東口ビジターセンターの館内装飾を一新し、四季折々に造花や展示を入れ替え、季節感のある明るい雰囲気づくりを行い、施設利用者アンケートにおいて多くの方から「満足」以上の回答を得るなど好評を得た。また、西口サテライトや東口花壇でも来園者のおもてなし空間を意識した季節感のある装飾や整備を行った。 【清掃業務】 ●再委託先と定期的に作業内容を確認し、状況に応じた対応を細かく指示することで、「施設の清潔さ」についてのアンケート調査において、98%以上の利用者から「満足」以上の評価を得た。 ●美術館の屋外エレベータ入口床面の苔除去を高圧洗浄に定期化したりするなど、各施設の特性や状況に応じた、柔軟かつ適切な業務を実施した。 ●ナラ枯れ通行止め解除やばら苑の一般開放の準備のため、園路等の特別清掃を行うなど、利用者が快適に利用できる環境づくりに適した業務を臨機応変に実施した。 ●科学館の屋上清掃において、施設設備や展示物等への影響はなかったものの、対応の遅れにより、排水溝詰まりを原因とする溢水等が発生した。 【警備業務】 ●近隣施設との情報交換を行い、イベント等を把握するとともに、時期や天候により駐車場の混雑が予測される際はスタッフを増員した他、駐輪場にも案内係を配置し、車両及び歩行者の安全を確保した。 ●多摩警察署等と定期的に意見交換を行い、双方がいつでも相談し易い環境づくりを行った。 【樹木等管理】 ●枯れ枝は落枝等の危険があることから、特に強風時等は巡回を強化し、利用者の安全確保に努めた。さらに、園路沿い等、来園者に危険が及ぶ可能性がある被害木について、伐採を行った。また、全国都市緑化フェア期間中は、作業時間が指定されるなどの制約がある中で、適切な樹木等の管理を行った。 ●環境省による重要里地里山に指定されている「生田の雑木林」保全を念頭に、コナラを主体とする雑木林の再生活動を適切に実施した。 ●民家園では、日常的に園路危険箇所（特にナラ枯れ木）や落枝・倒木の点検を通し、文化財建造物や来園者に危険となる支障木を適宜伐採するなど、適切な支障木管理を行った。				

4. その他加点点

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
その他加点点	市の政策課題への取組	資源循環や地域包括ケアの取組の推進	5	5	5
	(評価の理由) ●次のとおり、「川崎市持続可能な開発目標（SDGs）推進方針」及び「川崎市地域包括ケアシステム推進ビジョン」とともに、「生田緑地ビジョン」の基本理念である「豊かな自然・文化・人・まちがともに息づきみどりがつながる持続可能な生田緑地の実現」に資する取組として認められる。 ・ナラ枯れ材を含め、緑地内で発生した三大資源（木材、竹材、ササ材）について、これまでの民家園の燻煙活動や薪販売での活用の取組に加え、次のような活用を行った。 多摩区こどもの外遊び交流委員会への発生材の提供 青空フェスタでのベンチづくりワークショップや、お月見フェスタや全国都市緑化フェアでのおもちゃ制作 ナラ枯れ材等の伐採木を使用した器や平皿、カッサなどの木工品販売 ウメの剪定枝やアズマネザサの葉を草木染材料として使用した「ウメ染め布を使った巻きバラワークショップ」の実施 薪材乾燥促進と貯留量の拡大に向けた「スイス積み」の導入 アズマネザサ材の保育園への提供や館内装飾としての活用 神奈川県園芸協会と連携した、クズを使用したクリスマスリースづくりイベントの実施（国際園芸博関連事業） ・軽微な木道補修等においては、剪定時に発生した材等を活用した。 ・市内の生産農家より、市場に出しにくい規格外のサイズや形状のサツマイモを仕入れ、ナラ枯れ材や枯死木から発生した薪を活用した焼き芋をつくり、各種イベントで販売した他、民家園での燻蒸作業で得られた灰を伝統工芸館で本藍の液を建てる際に使用したり、落ち葉を堆肥やカブトムシ飼育用の腐葉土として提供する取組を行った。 ・児童発達支援施設での読み聞かせ等の青空保育開催への協力や、幅広い層が参加する健康づくりのヨガやピラティスのイベントなど、地域の交流や健康づくりの場としての役割を果たすなど、地域包括ケアシステムの推進に寄与する取組を行った。 ・園芸家深町貴子氏と連携し、地域社会共生化に向けたSDGsプログラム「まちなか向日葵しぼり隊」を展開し、市民自ら種をまき、育てたヒマワリの種から油を絞るといった、エネルギーの循環を通じて地域共生と循環型社会形成を学ぶプログラムを実施した。 ・生田緑地にとどまらず周辺地域を巻き込んだエリアマネジメントの推進役としての意識を持ち、向ヶ丘遊園駅南口での地域活性化イベント「えきまえ遊園パーク」に積極的に参加し、会場装飾によりイベントを盛り上げた他、向ヶ丘遊園駅南口での地域との連携による花壇づくりに積極的に参加した他、市制100周年事業として実施した、ばら苑にちなんだ「ばらサイダー」の販売を積極的に行うなど、市と連携し、地域活性化等に取り組んだ。 ・東口花壇の整備や「香りロード」の新設、緑地の発生材を活用した「スタードーム」や「素朴なベンチ」の制作を担うなど、緑化フェアの会場装飾に協力し、指定管理者の創意工夫に富んだ、緑地ならではのおもてなし空間を創出するなど、市制100周年記念事業となる緑化フェアの盛り上がり大きく寄与した。				

5. 総合評価

評価点合計	76.2	評価ランク	B
-------	------	-------	---

※評価ランクの適用基準

評価ランク	適用基準（評価点合計）
A	総合評価の結果、特に優れていると認められる。（80点以上）
B	総合評価の結果、優れていると認められる。（70点以上80点未満）
C	総合評価の結果、適正であると認められる。（60点以上70点未満） ※標準点
D	総合評価の結果、改善が必要であると認められる。（50点以上60点未満）
E	総合評価の結果、問題があり適切な措置を講じる必要がある。（50点未満）

6. 事業執行（管理運営）に対する全体的な評価

●月次及び四半期毎のセルフモニタリングを実施するとともに、苦情・要望について情報共有し、必要な改善や対策を行いながら利用者満足度の向上に努め、常設アンケート調査の利用者満足度では、令和6年度は約68%の利用者から「とても満足した」、約27%の利用者から「満足した」との評価を得ており、合わせて約95%の利用者から「満足した」以上の高い評価を得ている。
●生田緑地の課題の一つである利用の少ないエリアの活用では、西口広場でのTAROマルシェ、枳形山展望台での薪能や音楽イベント等の実施によりより充実が図られた。また、緑地及び3館それぞれの特性を生かした自主事業等を実施し、参加者の約97%から「よかった」以上の高評価を得る利用者満足度の高い自主事業を展開した。
●全国都市緑化フェアのコア会場となり、様々な手法を駆使した広報活動を展開した他、メタセコイア林が藍の布と霧で幻想的な空間に包まれる「藍と霧のメタセコイア」において、藍染作品の制作を担当し、多くの方が写真を撮影する人気のスポットになった。また、多くの方が来場されることから、混雑予測に基づき駐車場警備体制の強化を行うなど、来場者の安全・安心に寄与した。特に、開催期間中においては、運営サイドと緊密に連携をとりながら、緑化フェアのオペレーションを熟知の上、連絡体制を確立し、無線機やメッセージアプリを活用しながら、車両の通行や園内ルール、迷子やけが等に適切に対応するなど、緑化フェアの円滑な運営に寄与した。
●1年を通じ、生田緑地というフィールドを通して、小学校・大学・企業・市民活動団体・地域・市・指定管理者が協働でつながり、各々単独では対応困難な課題について解決していく、市と各主体等とをつなぐ中間支援組織の役割を担った。
●コロナの規制の緩和によるレジャーの選択肢の拡大や燃料の高騰などによる電気代の高騰などに加え、全国都市緑化フェアの開催や準備等により自主事業の拡充が難しい環境の中、節電等に努めつつ、魅力ある事業を展開した点は評価できる。
●公式Xの誤配信の発生を受け、コンプライアンスに係るマニュアルや運用方法を再検証の上見直し、本部とも連携し、スタッフへの研修や定例的なミーティングでの注意喚起を行うなど、再発防止に取り組んだ。

7. 来年度の事業執行（管理運営）に対する指導事項等

- 「川崎市持続可能な開発目標（SDGs）推進方針」及び「川崎市地域包括ケアシステム推進ビジョン」とともに、「生田緑地ビジョン」（令和6年5月改定）の基本理念である「豊かな自然・文化・人・まちがともに息づきみどりがつなげる持続可能な生田緑地の実現」に資する取組について、緑化フェア開催時の知見などを踏まえ、さらに発展させていただきたい。
- ボランティア活動の継承に向け、既存の団体に所属せずに気軽に取り組める「ゆるボラ」の活動を継続・発展し、新たな担い手確保につなげていただきたい。
- 3館及び緑地でのイベント、ワークショップ等についてそれぞれ創意工夫により展開していただいているところであるが、横断的管理運営を生かし、館の垣根を超える取組等についてもさらに充実を図っていただきたい。
- 他施設等との連携を含め、緑地内の維持管理作業による発生材の有効活用に関する取組を継続・発展させていただきたい。
- 引き続き、安全・安心かつ清潔な公園及び施設の維持管理に努めるとともに、創意工夫により効果的かつ効率的な支出及び魅力的な自主事業の実施等により収入の確保に取組み、収支のバランスに注意して業務を行っていただきたい。また、今年度は全国都市緑化フェアによる来場者の取り込みを狙い投資した部分も少なからずあったと思うが、今後はその部分をいかに収入に結びつけていくのか、市と協議しながら、取組を進めていっていただきたい。
- 各施設の特性や状況に応じた、柔軟かつ適切な清掃業務を実施していることは評価する一方で、科学館の屋上清掃において、排水溝詰まりが原因による溢水等が生じるなど、一部対応が遅れたケースがあった。今後は、施設の老朽化が進む中で激甚災害が頻発する現状を再認識し、「備え」の意識を市と共有しながら、適切な対応をお願いしたい。
- SNS等については、令和6年6月に発生した誤配信の再発防止に向けた取組が行われていることが確認できた。今後も、公共施設の公式SNSを運用しているという責任を再認識し、引き続き、緑地の魅力向上に向けた広報のさらなる充実を図っていただきたい。
- 緑化フェア開催によるダメージもあり、中央広場等の芝生の状態が悪化している。今後、市と協議しながら、エアレーションの作業等、適切な対応をお願いしたい。
- 来年度は、美術館における施設改修に伴う展覧会休止や民家園の伝統工芸館における設備改修に伴う休館が予定されており、当初の事業計画や人員配置等に影響を及ぼす指定管理業務の変更が生じる予定である。本市として適切に情報共有を図っていくので、引き続き、協議により適切な管理運営をお願いしたい。